

昭和大学
SHOWA University

—昭和大学歯科病院の理念—

患者本位の医療
先進医療の推進
良き医療人の育成

発行責任者

病院長

馬場 一美

編集責任者

広報委員長

丸岡 靖史

〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1

TEL 03-3787-1151(代表)
いちいちごいちホームページ: <https://www.showa-u.ac.jp/SUHD/index.html>

残暑が続きます。

地域連携歯科 診療科長 丸岡 靖史

地球温暖化の影響でしょうか、日本列島は梅雨明けも例年よりも早くなりました。猛暑に加えて台風接近・上陸や各地での線状降水帯に集中豪雨・ゲリラ豪雨で被害が発生しております。被害に遭われた皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

SDGs（持続可能な開発目標）では、社会・経済・環境の3側面から捉えることのできる17ゴールを統合的に解決しながら、持続可能な未来を築くことを目標としています。その中で、地球環境や気候変動など地球規模で取り組むべき環境課題、カーボンニュートラル（脱炭素）に向けて世界は動き出しています。120を超える国とEUが2050年までに、二酸化炭素または温暖化ガスの排出ゼロを目指し、地球温暖化対策として期待されています。

さて、コロナ禍のマスク生活で、会話の減少などによる口の中の乾燥や、在宅勤務などによる食生活の乱れから、虫歯リスクも増加しています。お口が不潔だと、腸内細菌のバランスが崩れ、全身の免疫力が低

下する危険性が高まります。口腔には噛む・食べる・飲み込む・味覚・唾液による消化・免疫物質の分泌・呼吸・話す・異物の認識・平衡感覚の維持・感情



表現などのさまざまな機能があります。そのために、口腔機能が低下すると、生活の質が低下します。特に全身麻酔での手術・抗がん剤治療前後（周術期）に口腔機能が低下すると術後肺炎など合併症の誘因にもなります。当院では、昭和大学各附属病院と連携して周術期等の口腔機能管理も積極的に行っております。専門的な口腔機能管理を行うことで、術後感染・肺炎予防、口腔のトラブル（気管内挿管時の歯や粘膜損傷・口内炎）予防となり、入院期間・抗菌薬投与期間の短縮に役立っています。さらに、術後に早く食事ができるための支援で、生活の質の向上が期待できます。



- P1 巻頭言 残暑が続きます。
 - P2 診療科紹介 地域連携歯科
 - P3 新入職員ご挨拶
 - P4 公開講座 開催のご案内
- 編集後記

記事見出しの色分けをいたしました。

■ 患者さん向け、 ■ 医療機関向け、 ■ お知らせなど

診療科紹介 地域連携歯科

地域連携歯科 助教（診療科長補佐） 松井 庄平

地域連携歯科は、平成21年4月に総合歯科として外来診療を開始して、現在の地域連携歯科となりました。地域の医療機関で対応が困難な患者さんを積極的に受け入れ、毎月200名近くの紹介患者さんが受診しております。

当科は、昭和大学歯科病院宛の紹介状（特定の科宛の紹介状を除く）をお持ちの全ての患者さんを拝見し、全般的な歯科治療をその患者さんに合わせて進めて参ります。必要に応じて院内専門各科、医科専門各科にも協力を求め、患者さんに最適・最良の治療を提供するように努めます。

初診時には患者さんの全身状態を把握し、安心・安全に診療を行うため、医療面接が長時間になる場合もあります。必要に応じて、かかりつけ医と診療情報連携共有を行います。すぐに歯科治療を行えない場合もありますのでご容赦いただければ幸いです。

1) 全身的な病気をお持ちの方

高血圧症などの循環器疾患、糖尿病、腎不全、脳卒中、呼吸器疾患など地域の歯科医院では治療が難しい方々を、かかりつけ医・歯科麻酔科と連携し、全身的なリスク評価を行い、血圧、脈拍、パルスオキシメーターなどをモニターしながら安全に治療いたします。

2) 歯科恐怖症の方

歯科と聞いただけで冷や汗が出る方、口腔内に治療器具が入っただけで嘔気反射になってしまう方など、治療前に歯科治療に対する詳細な問診を行い、適した治療法を提案しています。歯科麻酔科と連携して、静脈内鎮静

法や静脈麻酔を併用して治療を行ったり、徐々に歯科治療に慣れていくような、段階的な治療を行っています。静脈内鎮静法を併用しても、治療が困難な場合や、長期間の治療が予想される場合は、全身麻酔下にて集中的に治療を行う場合もあります。

3) 抗がん剤・骨吸収抑制薬使用中の方

がん薬物療法や骨吸収抑制薬を使用中の患者さんでは、口腔粘膜炎や薬剤関連顎骨壊死などの副作用を生じることがあります。かかりつけ医と連携して、上記薬剤使用前から、積極的に口腔機能管理を行って薬剤を開始する方が得策です。さらに地域の医療機関と連携して、周術期や緩和医療期などの口腔機能管理も積極的に行っております。



歯科麻酔科と連携した、静脈内鎮静法による治療の様子



医局員の集合写真

新入職員ご挨拶

令和3年4月1日より歯科放射線科（歯学部口腔病態診断科学講座歯科放射線医学部門）に入職いたしました野澤道仁と申します。

名古屋市にありますが愛知学院大学歯学部を卒業し、臨床研修を経て同歯学部歯科放射線学講座にて7年間勤務しておりました。勤務中は同歯学部附属病院の臨床研修センターにも3年間所属しておりました。生まれも育ちも名古屋市です。学生時代はずっと野球をしておりました。

現在、歯科病院では画像診断やCT撮影等を担当しております。少しでも成長できるよう日々精進して参ります。関係者の皆様、今後ともよろしく願いいたします。

歯科放射線科 助教 野澤 道仁

はじめまして。今年の4月から地域連携歯科の助教になりました菊池真理子と申します。地域連携歯科では心臓病・糖尿病・がん治療中・抗血栓薬服用などの全身疾患、歯科恐怖症などで地域の歯科医院での対応が困難な方の治療を行っています。

超高齢社会となり歯科受診される患者さんの殆どが何かしらの病気を有しているため、歯科治療時に留意すべき病気について実際に学んでいける環境はとてありがたいことと思っております。今後もより多くの知識を学び、経験を積んでいけるよう日々精進して参りますのでどうぞよろしく願いいたします。

地域連携歯科 助教 菊池 真理子

令和3年4月より昭和大学歯科病院歯科麻酔科に入職しました、高見智香恵（たかみ ちかえ）と申します。

歯科麻酔科では、口腔外科領域の全身麻酔や静脈鎮静法、全身疾患がある患者さんのモニタリング等を行なっています。

毎朝のカンファレンスでは指導医の先生方と症例を検討し、より良い全身管理を行うための麻酔計画を指導していただきます。

これからは安全に全身管理を行い、また患者さんの心に寄り添い少しでも安心して治療を受けてもらえるよう精進してまいります。未熟者ではございますが、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

歯科麻酔科 助教（歯科） 高見 智香恵

口腔リハビリテーション科に入局いたしました福西佑真です。私は2014年に日本歯科大学生命歯学部を卒業後、帝京大学医学部附属病院歯科口腔外科で臨床研修を行い、同大学形成・口腔顎顔面外科学講座大学院に入学しました。同講座の非常勤講師として新生児から変性疾患患者まで全科の嚥下障害患者に対応されていた高橋浩二教授との出会いから摂食嚥下分野に興味を持ち、学位研究を口腔リハビリテーション科で行い、博士（医学）課程を修了しました。これからも日々精進し、吸収したものを全て患者さんの診療に生かすつもりでおりますので何卒宜しく願いいたします。

口腔リハビリテーション科
助教（歯科） 福西 佑真

昭和大学公開講座開催のお知らせ

事務課管理係

2021年10月2日（土）に、当院の6階 臨床講堂にて、第24回昭和大学公開講座を開催いたします。無料ですので、どなたでもご参加ください。

新型コロナウイルス感染症対策のため、手指消毒・体温チェック・マスク着用をお願いします。参加は先着50名様までとし、十分に距離を取ってお座りいただきます。

また、新型コロナウイルス感染症の状況により、開催方法の変更・中止となる可能性もございます。あらかじめご了承ください。

日程：2021年10月2日（土） 午後1時～午後3時

会場：昭和大学歯科病院 6階 臨床講堂

大田区北千束2-1-1

参加費無料／事前予約不要、先着50名様

★受講後、氏名入りの受講証の発行をご希望される方は、事前のお申込みが必要です。

★また、確実に席を確保されたい方も、事前のお申込みをおすすめいたします。

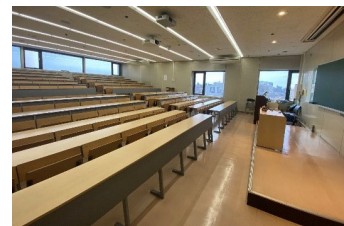
<直接お申込みいただく場合>

昭和大学歯科病院 1階ロビー 出口付近にあります申込用紙に記入の上、「公開講座申込受付箱」にお入れ下さい。

<メールでお申込みいただく場合>

件名を「公開講座受講希望」とし、氏名（ふりがな）・電話番号・住所を入力の上、下記までお送りください。

E-Mail : dh-festa@ofc.showa-u.ac.jp



臨床講堂

担当講師

【睡眠時無呼吸症候群（SAS）】

- ・菅沼 岳史（顎関節症治療科・診療科長）
- ・安藤 浩一（内科クリニック・診療科長補佐）

【お口の健康を保つために

- ～気付いてますか？お口の変化～】
- ・茂木 香苗（歯科衛生室・歯科衛生士）

※予定のため、担当講師や内容が変更となる可能性がございます。



編集後記

開催まで長く色々あったオリンピックも先日無事閉会式を迎えました。日本人のメダル争いは手に汗握るものも多く、コロナ自粛で鬱々とした日々に明るい風を吹かせてくれたことと思います。新型コロナウイルス感染患者数は増える一方でまだまだ自粛は続きますが、皆様気を緩めず対策をしっかりして乗り越えていきましょう。

(M.K)

